

自由南アフリカの声

Voice of Free South Africa

2006年10月

No. 42

発行 / アジア・アフリカと共に歩む会

Published by Together with Africa and Asia Association (TAAA)

2006年10月までの報告と予定

- 5月～10月 月1回、本の梱包作業とミーティング
- 5月 南河内より移動図書館を引取る
- 5月 横浜市中心移動図書館を引取る
- 6月 AJF 主催「平林薫を囲む会」 7月 NECソフト主催「TAAA 活動報告会」
- 8月 千葉市中心、亀山市、柏市より移動図書館車を引取る
- 8月 フリーステート州へ練馬区光が丘車と泉南市車を送る
- 9月 英語の本15753冊を南アへ送る
- 9月 KZN 州へ宮代町、入間市、和泉市の移動図書館を送る

内容

念願だった南アフリカへ！（米山周作）	2
河合塾の貢献（井上慎一） タンザニアから一時帰国して（千葉愁子）	5
TAAAと私 第3回（野田千香子）	6
算数セット利用状況報告（平林薫）	7
西ケープ州カエリチャで動き始めた移動図書館車！	8
海の家「BlueMoon」で開催されたチャリティーイベント（関根章博）	9
ムルンギシ学費支援基金が始まります	10
主な活動・ルイボスティ	11
寄付・会費・本などを下さった方々	12



日本から送った算数セットを使って勉強する子どもたち



念願だった南アフリカへ！

米山 周作 (TAAA 会員)

8月4日(金)から22日(火)まで、念願の南アフリカへ行ってきました！ デベトン、イナンダ、カエリチャの移動図書館車と、ソウェトとケープタウンのそれぞれでお世話になった NGO についてご紹介をさせていただきます。(写真：ソウェトにて)

1. 「まつの木号」(8/10 乗車)

TAAA が郵便貯金ボランティア事業で建てたレンガ造りの重厚な建物。内部には整然と整えられた書庫と、移動図書館「まつの木号」の車庫があります。大変立派な図書館車の基地です。司書のアリソンさんの書庫整理やバス運行に関する説明から、仕事に対する熱意と使命感が伝わってきます。昨年の貸し出し総数は 15,000 冊、今年は 20,000 冊が目標だそうで「絶対に達成できる！」と力強く語っていました。



この日は、アリソンさん、運転手のアブソレムさんと出発。回った小学校は 3 校でした。校長先生にご挨拶し、校内をご案内していただいた後にバスに戻ると、バス内には先生方が集まっていました。大変陽気に、談笑しながら本を探す先生方。一人の先生は、ズールー語やソト語等のアフリカン言語のテキストが手に入らないので、図書館車のストックが非常に助かるとおっしゃっていました。アリソンさんは手際よくパソコンを使って貸し出し処理を行い、アブソレムさんも本を教室まで運搬したりと、二人とも常にお忙しい様子。将来的には、先生方ではなく子ども達が直接本を借りられるようにしたいとのことですが、現状ではまだ問題が多いようです。図書館車が学校の風景に自然に溶け込んでおり、図書館車の到着が 1 つの日常になっている様子が、プロジェクトの定着ぶりを表していました。



「まつの木号」内で本を探す先生方

移動中、アリソンさんが温かいコーヒーを出してくれました。寒い日は暖かい飲み物が欠かせないので、常備しているとのこと。

2. 「The Mobile Brain Box」(8/14 乗車)

KZN 州教育省がイナンダで運行する図書館車は、薄緑色と紫色に明るくペイントされ、「The Mobile Brain Box」と描かれました。「まつの木号」よりもずっと小型で、バスというよりはバンといった方がいいでしょう。朝、ドライバーのトコさんが書庫から本を運び出していました。私が図書館車の上の棚にそれを並べていると、トコさんは下の棚に積んでおけばいいと言います。今からきれいに並べても、険しい山道を走っている間にぐしゃぐしゃになってしまうので、学校に着い



出発前、下の棚に本を積むトコさん

てから棚に並べるのだそうです。トコさん、司書のゼトゥさん、私の3人で出発。平林さん、サンディーレさん、運転手のマイケルさんは後ろから車でついてきます。

ダーバン市内からイナンダへ。確かに凄い凸凹道でした。イナンダでも熱意のある学校とそうでない学校とがあり、通り過ぎた1つの学校の校長は大変熱心だと言います。パソコンがないので貸し出し処理にどうしても時間がかかってしまい、1日1校しか回れないとのこと。45分ほど走って、教会のある小さな小学校へ。中庭には大きな木が立ち、緑溢れる気持ちのいい学校です。教室の窓からニコニコとこちらを見守る子ども達。棚に本を並べていると、担当の先生が子ども達と一緒にやって来て、子ども達の本探しが始まります。ここでは先生方ではなく、子ども達が直接本を借りています。校長先生に会い、図書室を見せていただきました。広さもあり、明るくきれいに整ってはいますが、十分な蔵書数ではありません。教員の数が足りず、高校の卒業試験に通っていない先生、小学校5年までしか終わっていない先生もいるそうです。学校には授業開始のベルはなく、先生が教室に行った時が授業の開始になるとのこと。私達が昼過ぎに帰るまで先生方はずっと話をしてくれましたが、その間、子ども達は遊んで待っています。非常にのどかで、のびのびとした自由な校風を感じました。ゼトゥさんによると、この日は前回に貸し出した本をまだ返却していない子どもが多く、新たな貸し出しを許可できなかった子どもが多かったということです。



貸し出し手続きをするゼトゥさんと子ども達

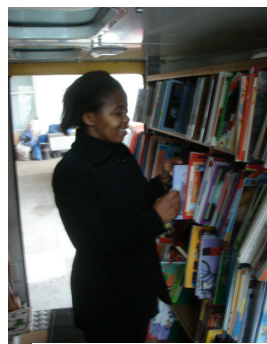
3. 「そよかぜ号」(8/18 訪問)

今年1月にカエリチャに送った図書館車が、どうなっているか様子を見てきてほしいと野田さんに頼まれ、「南部アフリカの教育を支える会」の木村さんと西ケープ州教育省図書情報部へ。道に迷い、人に聞きながらうろうろ走っていると、「鎌ヶ谷市立図書館」、「そよかぜ号」と書かれた図書館車の停まる建物を発見。担当のデイモンさん、メットカルフさんとお会いできました。

建物の内部は非常にきれいで、教師向けの教育指導書の図書館が併設されており、平日の夕方には先生方が集まってくるそうです。お二人に図書館車運行の見通しを率直に尋ねると、翌週の月曜日からの運行が決まったばかりで、ちょうど今準備しているとのこと！訪れたのが金曜日の昼だったので、週明けに運行開始ということでした。具体的な運行計画について簡単にご説明いただいた後、あらためて図書館車を見に外へ。3日後の運行開始に向けて、女性がバスを洗車しており、中では司書の一人が棚に忙しく本を並べていました。



3日後の運行に向けて洗車中



本を並べる司書さん

3日後の運行開始に向けて、女性がバスを洗車しており、中では司書の一人が棚に忙しく本を並べていました。

デイモンさんもメットカルフさんも運行に至るまで大変なご苦勞をされたそうで、今後もより多くの予算を州政府に請求し、質の高いプロジェクトになるように努めていきたいということでした。

4. NGO「SOMOHO」について

ヨハネスブルグではソウエトで4泊のホームステイをさせていただきました。その際にお世話になったのが、JVCの津山直子さんからご紹介いただいたSOMOHO (Soweto Mountain of Hope: 「ソウエト希望の丘」) というNGOです。実際に現地に行くまではよく知らなかった団体でしたが、100人以上のボランティアを抱える代表のマンドラ・メントールさんと初めてお会いした時は、落ち着いて、理路整然と微笑みながら話をされるその姿から、「何か凄そうな方だ」という第一印象を持ちました。実際には、第

一印象以上に凄い方でした。



ソウェト希望の丘

ソウェトのシャウェロ地区が SOMOHO の活動拠点です。ここに小高い丘があり、そこには塔が立ち、横には SOMOHO の文字。この辺一帯は公園になっており、植物が植えられ、人々が語らう広場があり、子ども達は走り回り、塔に登ればソウェトの街並みを描く画家がいます。この美しい丘も、アパートヘイト時代は不法のゴミ捨て場で、給水塔だったこの塔は飛び降り自殺に使われ、殺人や強盗も起こる無法地帯だったそうです。90 年にマンドラさんが若者達とこの地域の清掃を始めたのが SOMOHO の活動の前身で、植林活動やリサイクル運動に始まり、その後、音楽やダンス等の芸術活動、サッカー、現在は観光開発にも活動を広げています。2002 年のヨハネスブルグ・サミットの際には、国連のアナン事務総長ほか各国首脳部もこの丘を訪れており、また今年 9 月には水俣病 50 年イベントに参加するために、マンドラさん他 2 名のメンバーが日本を訪れるなど、まさに世界が注目する NGO と言えます。

私が訪れていた 5 日間だけでも、翌週の発表に向けたダンスの練習、週末の清掃キャンペーンの打ち合わせ、今後の活動に向けてのワークショップ等、様々な場に同席することができました。メンバーは 10 代後半から 60 代くらいまででしょうか。その場では常に活発な意見が出されていました。

今後 TAAA と SOMOHO がパートナーシップを組み、ソウェトでの図書館車運行が実現できないか、考えていきたいと思っています。



ワークショップの様子

5. NGO「南部アフリカの教育を支える会」について

ケープタウンでお世話になったのが、この会の現地代表である木村香子さんです。現地での活動は実質的にはお一人で、ソウェトで銃を突きつけられたご経験を笑いながら話すたくましい女性です。

滞在中に、会が関わったカエリチャの 2 つの幼稚園にお邪魔させていただきました。1 つは、材料費を会を出し、建設そのものは現地の住民が行ったという 2 階建ての幼稚園。もう 1 つは、子ども達が外で安全に遊べるように、会が建物の周りに鍵付きの策を立てたという幼稚園でした。ともに非常に小さな幼稚園でしたが、中では子ども達が昼寝をしたり遊んでいたり。8 月の冬であるにも関わらず、靴のない子や服がボロボロで裸同然の子もいます。それでもみんな明るく、客である私にニコニコと愛敬を振りまいてくれました。それまで 2 週間タウンシップを回り、このような光景に慣れつつ



会が材料費を出した 2 階建て幼稚園

あった自分が本当に怖いです。

カエリチャには住民がアクセスできる図書館がないため、木村さんが定期的にご自宅近くの図書館から本を数冊借りて、それをカエリチャに持っていき、家庭等に貸し出しているそうです。ご自身が移動図書館になっているわけです。このたび、西ケープ州教育省を 2 人で訪れて「そよかぜ号」を見てきたわけですが、木村さんも TAAA の活動にはご協力をいただけるとのことです。今後も木村さんと組み、カエリチャの移動図書館車を見守っていきたいと思っています。



木村さんと日本紹介の授業をしました

TAAAと私

第3回

(1993年～1994年)

野田 千香子

本は届いたか

キンバリー近郊のユニス・コマネさんの識字の講習会に送った本は、本当に届いたのだろうか。当時はパソコンはもちろんファックスもなく、手紙が往復するのに1ヶ月以上待たねばならなかった。初めての本を小包で送り出してから、数ヶ月。音沙汰がない。

1993年の正月、反差別国際運動 IMADR の松本めぐみさんが電話を下さった。コマネさんのコミュニティセンターを支援しておられた松本さんに、訪問の折に本が届いているかどうか見届けて下さるようお願いしてあったのだ。「使い捨てカメラの最後の1枚に、野田さんたちが送られた本とコマネさんの写真をおさめてきたので送ります」と言われた。数日して届いた写真には、確かに送った英語の本がテーブルに置かれ、その回りにコマネさんを始め、数人の男女が本を手を取ろうとしている姿が写っていた。

たった1枚のこの写真は、その後、日本経済新聞の社会面のトップに大きく掲載され、全国に報道されたのだった。各地から連絡をいただき、その中には、10数年たつ今でも、すばらしい英語の絵本の入った箱や寄付金を送り続けてくださる方もおられる。

本は役に立ったか

教科書や絵本などを集めて下さった高校の生徒さんや先生がたに会報や新聞を通じて、この写真を見ていただくことができ、私たちはほっと一息ついた。

次に気になるのは、それらの本がどのように使われているのだろう、ということであった。これもまた、他の団体、JVC(日本国際ボランティアセンター)の方々がビデオにとってきて下さった。小屋のような家の台所で、数人の中年の女性がテーブルを囲んで座っている。手に持っているのは、「あっ、ニュークラウンだ！」

子供の頃、学校に行けなかった女性たちが中1の日本の英語の教科書を使って、アルファベットから学んでいる。

私も TAAA のメンバーたちも、国際ボランティア活動は未経験のものばかりだった。TAAA は他の団体の方々やジャーナリストたちに助けられ、学ばせていただき

ながら、少しずつ、育っていった。

南アネットワークとアフリカ開発会議

1990年の東西冷戦の終結に続いて、南アの新政権の誕生を目の前に、日本でもイデオロギ的な反アパルトヘイト運動は少しずつ、後退し始め、南ア新体制の支援活動へ移行していった。ANC 東京事務所で力を発揮されていた津山直子さんは、JVC に移られ、南アで亡命から帰還した人たちや地域住民への支援活動に従事されるようになった。

1993年、JVCの一隅を借りて、隔月に南アネットワークの会合が開かれた。自由な集りで担当は持ち回り。集まる人は、JVCの南ア担当の方たち、他の南ア関連NGOの方々、学生、研究者、新聞記者やフリージャーナリストなど。ANC 東京事務所代表のマツィーラ氏が加わる事もあった。

旧体制も残存しながら、刻一刻、変わりつつある南アフリカを訪ねた人の話しを聞いたり、ビデオや写真を見せてもらったり、と熱気のあるミーティングであった。

1992年10月、東京で開かれた第1回「アフリカ開発会議」に臨み、民間の手でアフリカ各国からのNGOの代表を招き、アフリカシンポジウムを開催、それを機に1993年3月「アフリカ日本協議会(AJF)」(NPO法人)が設立された。私は設立当時から、参加し現在に至っている。目的とするところは、アフリカの地域の自立支援、アフリカ・ネットワークの形成、アフリカ理解の促進、政策提言などである。

本の送り先を広げる

インターナショナルスクールからトラックに一杯本を運んできて下さったこともあった。全国からかなりの英語の本が送られてくるようになり、本を役に立ててくれる南アの受け取り先を新たに探す必要が出てきた。南アでは、アパルトヘイトの時に黒人の教育を意識的に低下させたため、本は学校にも家庭にもほとんどない、という状況であった。しかし、闇雲に送っても、有効に使用してもらうことはできない。

そこで南アを訪問されたNGOの方から、南アで出版されたNGO紹介の本をお借りし”education”をキーワ

イナンダ・マンドシ小学校 算数セット利用状況報告

平林 薫 (TAAA 南ア事務所代表)

南浦和の皆さんから寄付していただいた算数セットについて、マンドシ小での利用状況を視察してきました。

グレード R のクラスでは、先生がマグネットのついた数字を黒板に張り、子供たちに数字のとなりにもその数だけマグネットのブロックを張らせていました。また、形を黒板に張り、その形の名称(三角、四角など)、角の数(3つ、4つなど)、色(赤、黄色など)を言わせます。子供たちは黒板の近くにかたまって床に座って授業を受けています。ゲーム感覚で楽しみながら数字や形を覚えているようでした。

グレード 1 では、先生が適当な数字を言って、その数字をばらばらにしたカードの中から選ばせます。+ や -、= など、正しく選んだ生徒はカードを頭の上に掲げて“人間計算式”をつくります。答えをグループごとにブロックを使って計算させ、答えの数字をやはりカードの中から選ばせます。正解であれば、その生徒も数字を掲げて、皆で合唱します。自分が答えたくて、さされる前から前に出てきてしまう子もいました。また、移動図書館車から借りた本が教室の隅にコーナーライブラリーとして置かれており、“子供たちが毎日‘本を読んで！’とせがむのです”と先生がおっしゃっていました。

グレード 2 と 3 では、時計の読み方や、足し算・引き算カードを利用しています。本来、算数セットを使った基本的な計算はできているはずの学年なのに、足し算・引き算カードでつまかえて先生に怒られる子もいました。



グレード R と算数の勉強を始めたばかりのグレード 1 が、新学期から算数セットを使い始めて、かなりの理解力と興味を示しています。グレード 2, 3 はグレード 1 の時に算数の勉強を十分にしていなかったようです。算数セット自体がグレード 1 に最適であるということもいえます。

もともと南アフリカの黒人生徒が通う学校では、授業は先生が話をし、生徒が聞いて覚えるという方法がとられています。今でも、一人ひとりがそれぞれに自分の教科書を使用している学校はほとんどありません。このようなリソースの乏しい学校で数学の力をつけさせるにはどうしたらいいのでしょうか。皆さんからご意見、アドバイスをいただければと思います。

寄付をいただいた日本の算数セットは南アの地方の学校で有効に活用されています。これをきっかけに、子供たちが算数に興味を持ってくれるようになることを期待しています。南浦和の皆さん、どうもありがとうございました。

ードに、数団体へ手紙を書いた。1 通の返事が来た。それがヨハネスブルグから、30 キロのベノニ市の NGO/MEI のデイヴ・ベントレイさんからだった。会社員である白人のデイヴは黒人居住区デベトンで休日などに教育支援活動(教具寄付や補習授業)をしていた。「本はこの地区の 7 万人の子供たちにぜひ欲しい」と書かれてあった。そのときから、MEI は TAAA の大事なパートナー団体となったのだ。その 3 年後には、日本で使われなくなった移動図書館車を送ることになり、その車は南アで最初の運行開始となり、今も 40 校を巡回しシステムも充実している。

1993 年に知り合ったもう一つの南アの NGO/ELET も今なお、深いつながりを持つパートナー団体である。南アを長く取材されたジャーナリストの佐保美恵子さんが紹介して下さった ELET はアパートヘイト時から、黒人の教育向上の活動を地道に続けているクワズルーナタール(KZN) 州の NGO である。この 13 年間に ELET を通じて送った本の冊数は 25 万を下らない。

私たちは 1994 年 3 月に初めて南アを訪れるまで、MEI やコマネさんや ELET や東ケープ州のノクゾラ・マギダさ

んたちと手紙やファックスで絶えず連絡をとりながら、要望に応じて英語の本を送っていった。

1994 年初めての南ア訪問、送った本が着いていた。
MEI のベントレイさんと野田



(つづく)

西ケープ州カエリチャで動き始めた移動図書館車！

千香子さん

こんにちは。

サマーセットウエストの後の山には先週からの雪がまだ残っていますが、今日はケープタウンの春初日です。

私に直接連絡してくださり、ありがとうございました。この2週間で移動図書館車がカエリチャ内の4校を訪問したことを、喜んでご報告します。全校ともプロジェクトに参加したことをとても喜んでいきます。次の2週間では新たに5校訪問するので、第1段階の一期間で9校訪問することになります。

EDULIS 全職員は、プロジェクトを運行可能な状態に仕上げ、恵まれない学校への

支援に熱心に取り組んでいます。カエリチャ周辺で道を探すのは、今までにない経験でした。最新の地図さえ、学校名を間違えて載せているのですから。今のところ、コサ語を話す司書またはアシスタント1人を毎回の訪問に送っています（コサ語スタッフは3人います）。コミュニケーションを図るのに役立つのです。学校は9月末で春休みになりますが、新学期まで本を預けます。新学期の10月に2回目の訪問をし、この時教師から本を返却してもらい、新しい本を貸し出します。

本の貸出に使用しているラップトップと EDUPALS 図書システムは、順調で問題ありません。現在はオフラインでやっていますが、新しいテクノロジーが整えば、オンラインで貸出、返却が処理できるようになります。

教師たちの特定のニーズや興味を満たすに十分な図書を供給していくのは、大きな課題です。今年度予算から追加の本を発注しているところですが、本は、前回の注文と同じく、支援対象校のレベルや言語に合わせて選択しました。本の配送、入手、目録作成、図書準備には時間がかかります。その間は、本館からできるだけ多くの蔵書を使っています。

ローズ・デーモン（EDULIS 副所長）とコシ・マバンドラ（カエリチャの学校の学校図書アドバイザー）は対象校をフォローアップ訪問し始めました。教師と生徒の本の使用を確認し、自校で図書室を作るのを支援するためです。学校の図書室作りは、「移動図書館サービス」の目標の一つです。学校支援をしている EMDC 東メトロ地区事務所の職員も教師と協力していきます。ローズは、図書館車運行の資金援助を得るために、西ケープ州教育省教育基金の会議に出席しました。私たちは今のところ、EDULIS 基金からガソリンその他の出費を支払っています。

ノルサンド聾学校にプロジェクト開始を祝う訪問した時、私は新しいソニーのデジタルカメラで写真を撮りました。コンピューターにダウンロードしたら、メールで送りますね。貴女や他の TAAA メンバーも、私たちとこのイベントをシェアできますものね。地区職員、教師、生徒（3歳から21歳）がバスの訪問をどんなに喜んでいるのかご覧になれます。ほとんどの教師と生徒は手話を使いますが、補聴器を填めている生徒もいます。教師アシスタントの中には、聾啞者もいて、教師に手話を教えています。

貴女と他の TAAA メンバーのご支援に、感謝いたします。



2006年8月に米山さん（左）が準備中の車を訪問しました

西ケープ州教育省図書情報機関（EDULIS）所長
リン・メットカルフ

（訳：久我 裕子）

海の家「BlueMoon」で開催された チャリティーイベント

関根 章博

「BlueMoon」は神奈川県葉山町の一色海岸にあり、竹をベースに組み上げられたシンプルで落ち着いた雰囲気の海の家です。鎌倉から程近く御用邸が目の前にある素晴らしいロケーションの中、「アフリカの子供達にサッカーボールを送ろう！」という趣旨に賛同し集まった音楽職人集団「JazzySport」、ファッションブランド

「LUZ-e-SOMBRA」、「futsalcafe-KEL」の共同企画によりチャリティーイベントが行われました。BlueMoonは、チャリティーイベントを積極的に受け入れ、売上をタイのHIV孤児院へ寄付するブースを設けたりもしています。

KELを始め他のメンバー達と8時頃から準備を進めました。TAAAとしてはアフリカの子供達の現状を伝えるべく、かつ海の家へ訪れたお客様へ押し付けでなくアピールするために竹の柱へ写真を展示することにしました。また会のパンフレット、10周年記念誌、会報、南アの小学生からのお礼のハガキ等を展示するブースも設けました。

お屋前から海岸には人が溢れ、BlueMoonにも活気がでできます。昼から夕方にかけてほぼ満席状態が続き、さらに店の脇にフットサルができるスペースがあり、子供達に人気がありました。

日が暮れてくると店内に流れてくる音楽でより一層リラックスしたムードになり、そのような中でポツポツと会報やパンフレットを手取るお客様がいました。19時頃、BlueMoon オーナーからチャリティーイベントの趣旨について店内でアナウンスして頂き、その後TAAAから南アの現状や日本において協力出来る事についてマイクで話をできる機会を設けてくださいました。このマイクでのPR後にお客様のテーブル一つ一つに歩み寄り、「募金のご協力おねがいます」との一言をかけていったところ、皆さん好意的に寄付してくださいました。

おかげ様でチャリティー募金額は48896円となりました。この金額はサッカーボールでしたら500個程度、また英語の本に換算すると約4000冊分の輸送費・梱包費等と同等になります。



通常のTAAA報告会では、南アの活動について知りたいという方が参加されます。ですがイベントがあることを知らずに来られた方々が大半で、海水浴に来て立ち寄った海の家でTAAAの活動写真やパンフレットを思いもかけず目にします。それでもマイクを手に取り活動内容を話し始めると、だんだんと皆さん話に引き込まれていきます。今回の感触として報告会のような形でなくとも、さりげなく活動についてPRできる場があることも、ボランティアについて関心の無かった人達に振り向いてもらう良い機会だと感じました。今後も、このように他団体と連携してチャリティーイベントを開催できればと思います。最後に、会場として前端的に協力してくださいましたBlueMoonスタッフの皆様、またKELをはじめ企画に賛同して集まったメンバー全員、イベントにお招きくださり大変ありがとうございました。



写真: TAAA のブースとフットサルで遊ぶスペース

ムルンギン学費支援基金が始まります。

南アフリカの地方の村では、1400円(70ランド)で子供1人が一年間小学校に通うことができます。ムルンギン・ンザマ君は優秀な学生でしたが、学費が払えないことを理由に学校を退学させられてしまいました。お金を稼ごうとして悪の道に引きずりこまれ、刑務所で結核にかかり、出所させられ、21歳の若さでひとり自宅で亡くなりました。ムルンギン君には14歳の弟ンゾクトウラ君、9歳の妹デリシーレちゃんがあります。彼らを二度とお兄さんのような目に遭わせたくありません。

彼らの通うマンドシ小学校では、全校生徒380人中、150人あまりが学費未納(または滞納)です。学費は学校の設備や様々な活動に使われることになっているのですが、このような状況の下、資金不足のため学校の改善は遅れています。学校に図書室を設置したいという長年の夢もなかなかありません。そこでTAAAはムルンギン学費資金を設立し、少しでも多くの子供たちが学校に通うことができ、学校の改善を支援できれば、と考えています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。(TAAA 南ア事務所代表 平林薫)

支援方法: 郵便振込み用紙の**通信欄**に「ムルンギン学費支援基金」・・・口数 とお書き下さい。

ムルンギン学費支援基金 (振り込み先は本誌P12の奥付に記載されています) 一口 1400円×口数

南アでは、義務教育の授業料は無料ですが、施設費や教材費などに使うスクールフィー(学費)と呼ばれる費用を各家庭が払う事になっています。私がこれまで訪問した学校の校長先生から、学費が払えない生徒が30%いる、50%いる、60%という話を各所で聞きました。そのために授業の教材や図書や子供の健康管理(トイレや水道など)に必要な資金がいつも不足しています。そこでTAAAは、草の根の教育支援の一環として、このような貧しい学校の惨状に対し手をさしのべていくことにしました。平林さんが移動図書館プロジェクト実施の中でたびたび訪れる、そして子供のことを常に愛情をもって考えているズールー校長先生のおられるマンドシ小学校を支援する所から始めたいと考えます。今後、平林さんからの報告や校長先生の報告と年度末の明細書や子どもたちの声などを会報やホームページに載せていきます。TAAAのホームページの南アニュースIZINDABAの「ムルンギン君の死」をご参照下さい。(TAAA 代表 野田千香子)



お兄さんのムルンギン君(21歳)が自宅で亡くなった直後の弟ンゾクトウラ君と妹デリシーレさん

ソウエトへ本とサッカーボールを!

ソウエトの希望の丘 SOMOHO を10数年前に創設したマンドラ・メントール氏に、米山さんが8月南アを訪問した際に、お会いしました(本誌 P3参照)。また、来日されたマンドラさんと野田も先日電話でお話しました。その結果、SOMOHO に英語の本とサッカーボールをお送りすることになりました。ゴミと犯罪の場所だった丘をマンドラさんたちは青少年のための美しい希望の丘に変えたのでした。11月には、ソウエトに TAAA から本とボールが到着する予定です。SOMOHO のキーワードでホームページを検索なさってみて下さい。アナン事務総長が訪れた写真も見ることができます。

◆ 主な活動 (2006年5月16日～2006年9月15日) 下線は南アにおける活動

- 5/16 毎日新聞社会面トップに南ア図書館車の記事
5/18～20 東ケープ州コーヒーベイの2校に本寄贈
平林薫
- 5/22 TCSF 主催津山直子さん(JVC)を囲む会
米山周作 野田千香子
- 5/20～6月 NEC ソフト主催 TAAA 南ア活動報告会
企画準備 丸岡晶
- 5/20～6/5 会報41号編集 野田 西村裕子
- 5/25 南アからの図書館車報告まとめ 久我祐子
- 5/27 南河内図書館車引取り 浅見克則 浅見俊介
- 5/27 横浜市中心車を金子氏宅へ移動 浅見 野田
- 5/27 イナンダ学校訪問 平林 武藤豊
- 6/11 ビクター・マトム(南ア写真家)講演会 浅見
西村 米山 野田
- 6/16 日本へ戻る 平林
- 6/17 アフリカ日本協議会総会 野田(理事になる)
- 6/19 会計会議 平林薫 西村 野田 浅見
- 6/20 会報41号発送作業 大久保ふみ 野田
- 6/20 埼玉県国際交流協会助成金相談 野田
- 6/25 会報41号HPへ掲載 近藤信幸
- 6/26 AJF 主催“平林薫を囲む会” 野田 丸岡 西村
米山
- 7/2 駐車場探し 浅見 野田 下谷房道
- 7/3 JICA 打ち合わせ会議 平林 野田 久我
- 7/3 算数セット募集案内作成 西村
- 7/5 NEC ソフトにて TAAA 活動報告会(講師:平林薫)
丸岡 野田 浅見 米山
- 7/7 広島で報告会 平林
- 7/8 河合塾呼びかけによる本が到着 42箱 野田
- 7/9 作業とミーティング 河合塾より井上慎一さん、
久保さん、塾生3名、シルヴェスターさん
竹口美鈴さん 平林 西村 関根章博
常見佳代 浅見 野田
- 7/12 フリーステート州輸入書類説明 蓮沼忠さん
- 7/13 駐車場探し、借りナンバー取り 浅見 野田
- 7/17 車4台熊谷市へ移動 浅見 北爪健一 西村
- 7/18 輸出抹消登録 運輸局へ 野田
- 7/25 フリーステート州図書館車責任者 Stals 氏が MEI
を見学
- 7/26 JICA 実川さんとンドエドエ視察 平林
- 8/2 和泉車と練馬区車がフリーステート州へ出港
- 8/3～21 南ア訪問 米山
- 8/3～4 蓮沼さんがケープタウンと諸情報部訪問
- 8/4 ブログ掲載 近藤
- 8/5 MEI 移動図書館訪問 米山
- 8/5～9 ソエト SOMOHO に滞在 米山
- 8/5 千葉市中央車引取り 浅見 関根 野田
- 8/6 作業と会議 浅見 下谷 武山理絵 野田
- 8/9 HP 更新 関根
- 8/9 AJF 主催東部南部アフリカ財産権収奪問題講演会
(講師 FAO 泉かおり氏) 野田
- 8/11 ンドエドエ学校訪問 米山 平林
- 8/13 葉山イベント準備 西村 野田
- 8/13 SAPESEI 設立総会
- 8/14 イナンダ移動図書館訪問 米山
- 8/15 ELET にてミーティング 平林 米山
- 8/16 ケープ学校訪問木村香子さんと 米山
- 8/17 カエリチャ学校訪問 米山
- 8/18 ケープタウンと諸情報部訪問 米山
- 8/18 JICA アフリカ理解講座 野田
- 8/19 葉山チャリティ・イベント 関根
- 8/21 西ケープ州カエリチャで運行開始
- 8/20 会計会議 西村 野田
- 8/23 移動図書館マンドシ小学校訪問 平林
- 8/24 Woman's Day 南ア大使館 久我祐子
- 8/24 南ア社会福祉問題学習会(牧野久美子氏) 野田
- 8/25 ELET 学校菜園プロジェクト式典 平林
- 8/25～26 KZN 州教育省会議 蓮沼さん 武藤
- 8/28 名古屋 ZIP FM ラジオ出演 平林
- 8/29 入間車、宮代車、泉南車 KZN 州へ出荷
- 8/31 ELET 会議 JICA 実川さん根本さんと 平林
- 9/1 フリーステート州向け車2台、南アに到着
- 9/3 作業と会議 関根 野田 西村 浅見
島田勝 武山 米山 下谷 千葉愁子
- 9/6 本をトラック3台で出荷 野田
- 9/6 クミ・ナイドウ講演会 野田
- 9/7 JVC 南ア農業プロジェクト報告会 野田
- 9/9 JICA 南部アフリカ障害者会議 野田
- 9/10 千葉車を中釘駐車場へ移送 浅見 野田
- 9/10 HP 更新 関根
- 9/12 ELET ミーティング 平林
- 9/13 柏市より移動図書館引取り 浅見
亀山市より移動図書館引取り 業者に依頼

ルイボスティのご紹介

南アだけで取れる健康茶ルイボスティをご購入
いただきますと、売上の一部が TAAA に寄付さ
れます。

1箱 80パック 2000円(送料一律500円)
(5箱以上 送料無料)

1パックでヤカン一杯のお茶が飲めます。
お申込みはP12のTAAA連絡先へ